ワークサンプル法の発展の経緯
―MWS（ワークサンプル幕張版）普及のための一考察―

○仲村信一郎　（障害者職業総合センター研究部門）

１．はじめに

MWSは、2000年～2004年にかけて、障害者職業総合センターにより開発された「職場適応促進のためのトータルパッケージ」を構成するツール群の一つであり、福祉施設等就労移行支援機関、医療機関、特別支援学校等教育機関、事業所において、1)作業学習・作業体験、2)職業評価・職業訓練、3)就労支援過程等での利用がなされている。

ここでは、文献レビューにより、現在までのワークサンプル法の発展の経緯に着目して整理し、MWSの普及について考える。

２．ワークサンプル法の始まり

ワークサンプル法の起源は、1911年にまで遡ることができ、ボストン鉄道の電車運転手の適性選抜に模型を利用して効果を上げている記録が残っている（西川,1998)。

1917年に障害者の経済的自立の達成を基本方針としてニューヨークに設立されたICD（International Center for the Disable）が、1957年にワークサンプルのさきがけとしてTOWER（Testing Orientation and Work Evaluation in Rehabilitation)法を開発した。

３．ワークサンプル法の日本への導入

（１）TOWER法伝達講習会の開催

我が国におけるワークサンプル法の歴史は1969年の岩崎による、TOWER法テキスト及び実施手引書の翻訳と「日本版TOWER法」伝達講習会を契機とし、TOWER法の導入によって始まった。

TOWER法伝達講習会は7回開催されたが、TOWER法を使用した職業評価を行うための時間が平均して3週間程度必要になることや、購入時のコスト的な負担が大きく、わが国においては広汎な普及に至らなかった経緯がある。

（２）「MICRO－TOWER法」の導入

1979年、職リハ学会において、ICDが開発したMICRO－TOWER法が紹介された。

MICRO-TOWER法はTOWER法と比較し、時間的・経済的コストが少なく、効率的な職業評価が可能なシステムであったことから、1986年に国立職業リハビリテーションセンターにおいて、「日本版MICRO-TOWER法」が開発され、1987年の市販化を経て、地域障害者職業センター等の職業リハ施設に導入された。

（３）わが国におけるワークサンプル法の開発

また、1980年代に入り、わが国においても以下のようなワークサンプル法が開発され、1985年～1990年代前半にかけて、関連の学会やセミナー、研究発表会等において、ワークサンプル法の活用に焦点を当てた発表が多数なされている。

＜わが国で開発された主なワークサンプル＞

1)O.R.C（Osaka Rehabilitation Center）評価法
2)東京身体障害者訓練校システム
3)Nishikawa-ECHOシステム
4)神奈川県職業相談センター式システム
5)雇用促進事業団式システム（現、「障害者職業センター方式」）

４．ワークサンプル法の活用状況

（１）MICRO－TOWER法のその後の活用状況

「MICRO-TOWER法日本版」は、主に、身体障害を対象とした職業評価ツールであるため、高次脳機能障害者、精神障害者、軽度発達障害者が、職リハサービスの対象者として注目され始めた1990年代後半から2000年代前半にかけて、

活用機会が減少していった。

（２）わが国で開発されたワークサンプルの活用状況

地域障害者職業センターでは、主に知的障害等を対象とした「障害者職業センター方式ワークサンプル法」を職業準備支援やジョブコーチ支援の事前支援段階で活用しており、また、国立職業リハセンター等の職業能力開発施設では、実際の訓練課題の一部を抜粋した内容のワークサンプルを活用している。

５．MWS の概要

（１）MWS の開発経緯

MICRO－TOWER 法や、わが国で開発された既存のワークサンプル法は、高次脳機能障害者、精神障害者、軽度発達障害者に対する適切かつ効率的な職業評価を実施していくことを視野に入れて開発されたシステムではない。

そこで、障害者職業総合センター研究部門においては、身体障害者、知的障害者を含め、精神障害者、軽度発達障害者、高次脳機能障害者等、特別な配慮が必要となる障害者に対する職業評価を適切に行うためのツールとして、また、作業やストレス・疲労のセルフマネージメントの確立、障害の補完手段・対処行動・作業遂行スキルを獲得していくための訓練ツールとして、MWS を開発した。

（２）MWS の構成

MWS は、職業評価や作業体験の際に用いる「簡易版」と、セルフマネージメントや障害の補完手段等を獲得していく際に用いる「訓練版」があり、ＯＡ作業、事務作業、実務作業に大別される 13 種類の作業課題で構成されている。

（３）MWS の普及

福祉施設等の就労支援移行機関における施設内訓練、医療機関における職能場面やデイケア場面、特別支援学校等の教育機関における職業教育、職業訓練委託先事業所における職業訓練、企業における雇用管理等の中で、MWS が体系的に活用されつつある。

各施設及び機関が MWS を体系的に活用していく過程で、対象者の支援ニーズにあわせた活用が試行されている。こうした取り組みの状況を整理・分析し、より活用しやすいツールとして改良していくことを予定している。

６．おわりに

吉光（1984）は、「全国的に、使用されるワークサンプルシステムが出現すれば、いわば『共通言語』となって我が国の職リハの体系化が非常な整合性を持って進められると思われる」と述べている。

MWS がその役割を担うべく、今後、普及のための活動を展開していくことが求められている。

７．文献

ICD：岩崎貞徳訳，小池文英監修：タワー法－能力評価の指標―(1969)
日本職業リハビリテーション学会：第 1 部 1．略史，職業リハビリテーションの実践と研究への挑戦，25 周年記念事業委員会，pp1-5.（1997）
西川実弥：リハビリテーション職業心理学，リハビリテーション心理学研究会（1998）
身体障害者雇用促進協会：職業評価 －主としてワークサンプル法について－，研究調査報告書－No.6 通刊第 17 号（1979）
職リハ調査研究報告書第 7 号マイクロタワー法の実証的研究報告書，国立職業リハビリテーションセンター研究部(1984)
障害者職業総合センター：職場適応支援のためのトータルパッケージーワークサンプル幕張版実施マニュアル理論編(2007)
吉光清：「ワークサンプル法」，国立職業リハビリテーション研修テキスト(3)，19-61（1984）

〒261－0014　千葉市美浜区若葉 3－1－3
独立行政法人高齢・障害者支援機構
障害者職業総合センター研究部門
研究員　仲村　信一郎
Tel：043-297-9083
E-mail：Nakamura.Shinichirou@jeed.or.jp